

## はじめに

『ナースが知っておく 認知症 “これだけ” ガイド』の出版から6年近く経過し、この間に、新型コロナウイルス感染パンデミックなど、われわれはかつて想像もしなかったような大きな変化を経験し乗り越えてきました。

認知症をめぐる、この間に大きな動きがあり、認知症の医療は新しい時代を迎えました。ひとつは、2024年1月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(認知症基本法)が施行されたことです。認知症基本法は、認知症の人々が尊厳を保持し、希望を持って社会生活を営めるよう、国や地方公共団体の役割を定めた画期的な法律です。

もうひとつは、アルツハイマー病に対する疾患修飾薬(根本治療薬)が発売されたことです。これまでは、アルツハイマー病をはじめとする変性疾患に対しては根本的に治療する手段がなかったため、抗認知症薬による対症療法やケア、血管性危険因子の管理などに終始していましたが、治療対象となっていなかった軽度認知障害を含めた軽症の認知症が、積極的に治療・予防介入する標的となり、まさに新しい時代を迎えたといえます。

そうした背景から、『ナースが知っておく 認知症 “これだけ” ガイド』の内容を刷新した第2版を出版することになりました。認知症に関わる基本的な知識や最新の情報を、第一線で活躍する臨床家や研究者がイラストや図表を用いてわかりやすく解説しています。今回も、「病態を理解する」、「疾患の理解を深める」、「検査を理解する」、「危険因子・予防を理解する」、「治療・ケアを理解する」、「認知症と社会支援」の6章から構成され、認知症の基本的な考え方から、病態、臨床像、画像診断や神経心理学的診断、さらに認知症の危険因子や予防、そして治療・ケア、社会資源の活用などについて幅広く網羅しています。本書が認知症の理解を深める上で活用されることを期待して止みません。

長田 乾

